

研究主題 **自分の思いや考えをもち、主体的に学ぶ子どもの育成**

1 単元名 名探ていになって ひみつを解き明かそう！

教材名 「友情のかべ新聞」

2 単元について

(1) 学習内容 (単元の内容・本時の内容も含む)

本単元では、ミステリー作品の文中で起こった事象と登場人物の気持ちのつながりを見付けながら読み、自分の考えを伝え合うという言語活動を行うことで、「叙述のつながりに気付き、それを根拠として自分の考えを伝える力」を身に付けることをねらいとしている。本活動は、小学校学習指導要領解説国語編第4学年の指導事項、「[思考力、判断力、表現力等] C 読むこと」の「(1) エ 登場人物の気持ちや性格、情景について、場面の移り変わりとは結び付けて想像すること」を受けて設定している。

本単元で扱う「友情のかべ新聞」という教材は、三人の主たる登場人物によって話が進んでいくミステリー作品である。ミステリー作品は、物語の布石や伏線を見付け、それらを出来事の原因や結末などと結び付けて意味を見いだしたり新たな結び付きを発見したりする、「推理・考察」するところにおもしろさがある。「友情のかべ新聞」では、ある出来事の当事者である「東君」と「西君」、そして、その二人の関係を客観的に見て推理していく「ぼく」によって話が進んでいく。「東君」と「西君」の性格は正反対であり、仲の悪さは周囲も認識している。月曜日、いつも以上に担任の中井先生に叱られた二人は、先生からかべ新聞を作ることを提案される。クラスの友達からは「無理だよ。」「絶対、けんかするね。」と言われていたにも関わらず、火曜日にはかべ新聞が完成する。その日から、二人はいつもと違う行動をし始め、二人の関係は変容していく。それに違和感を覚えた「ぼく」は二人の言動を追いながら秘密に迫っていく。同じような事象でも二人の行動や様子の描写の違いに着目することで、場面同士をつながりを考えることが謎解きの鍵となっている。物語の終末には「ぼく」が二人の秘密を客観的・論理的に推理し、謎解きのように説明していく。本作品は、教科書教材のために書き下ろされており、起きる出来事は子どもたちにとって日常でも起こりえる場面ばかりである。そのため、ミステリー作品の読書経験が少ない子どもでも、「東君」や「西君」、「ぼく」の言動に自分の経験などを重ねながら、読み進めていくことができる作品となっている。

本時では、「ぼく」の代わりに推理をしたことを友達同士で伝え合う活動を行う。物語中には、二人の気になる行動が散らばっている。前時までには、叙述をもとに、二人がなぜいつもと違う行動をしているのか根拠を探し、かべ新聞ができたあの日に何があったのかを推理しておく。叙述をもとに考えた根拠は一人一人違いが出てくる。互いの推理を理解し、その感じ方の違いに気付かせ、自分とは違う友達の感じ方のよさに気付かせたい。

3 単元目標

○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。
(知識及び技能 (3) オ)

◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
(思考力, 判断力, 表現力等 C (1) エ)

○登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けながら想像して読み、学習の見通しをもって、自分の考えを伝え合おうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。 <p>(1) オ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 <p>C (1) エ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けながら想像して読み、学習の見通しをもって、自分の考えを伝え合おうとしている。

5 指導計画 (8時間扱い)

時間	学習内容	評価規準 (評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の P65 の題名やリード文から物語を想像する。 「友情のかべ新聞」の P66-69 を読み、二人は協力して完成することができたのかを考える。 P70-71 を読み、問いをもつ。 問いをもとに単元計画とルーブリックを作成する。 			問いをもとに単元計画とルーブリックを作成している (記述・発言)
2	<ul style="list-style-type: none"> P66-69 から登場人物の性格を確かめる。 P70-71 を読んで気になる文章に線を引き、全体で共有する。 	登場人物の性格を叙述をもとに確かめている。 (発言・記述)		

3	<ul style="list-style-type: none"> ・P72-73 を読み、二人の行動で気になるところに線を引く。 ・二人の行動を表にまとめ、登場人物の気持ちや関係の変化について考える。 		登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(発言・記述)	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・P73-75 を読んで出来事の実を確認する。 ・「ぼく」の代わりに真相(二人が起こした出来事の秘密)について推理するために、二人の気になる行動をまとめる。 	二人の気になる行動を叙述をもとに確かめている。(発言・記述)		
5	<ul style="list-style-type: none"> ・書かれていることつながりを見つけながら読み、真相(二人が起こした出来事の秘密)「ぼく」の代わりに推理する。 		叙述をもとに真相を具体的に想像している。(発言・記述)	
6 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・推理したことを話し合う。 		叙述をもとに真相を想像し、伝え合おうとしている。(観察・発言)	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・P75-77 を読み、ぼくの推理と比較する。 ・P78-79 を読み、二人の気持ちや関係の変化について考える。 		ぼくの推理について、叙述をもとに確かめている。(発言・記述)	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習を振り返る。 			つながりを見付けながら読むことを、これからの学習でいかそうとしている。(発言・記述)

6 研究の視点について

視点1 単元計画・授業展開の工夫

(1) 学習計画とルーブリック(学習の到達基準)の作成

単元計画を児童と一緒に作成することで、今日は何をやるのか、次時はどんなことをするのかなど、見通しをもって学習に取り組むことができると考えた。さらに、ルーブリックも児童と一緒に作成し、どのような基準で学習に取り組めば理想の姿に近づけるのかを考えさせたい。

毎時間のゴールと、ゴールに向かうためのループリックを明確に示すことで、ねらいから逸れることなく学習が進められると考えた。また、ループリックによってその時間における学習の到達度を示すことで、伝え合いや推理を進める際の参考になるようにしたい。

(2) 場面ごとに区切る授業展開

本単元ではあらかじめ作品を通読することはせず、場面ごとに区切って読み進めていく。本教材は、物語の終末にぼくの推理が書かれている。児童がぼくの推理まで読んでしまうと、どの叙述をもとに推理したのかの文章探しになってしまい、つながりを見付けたり想像したりする楽しさを味わえないのではないかと考えた。そこで、毎時間、場面ごとに区切った本文をプリントにして配ることで、ぼくの推理に頼らず児童自身が自らの力でつながりを見付けることができると考えた。児童の実態から、毎時間の最初に物語の続きのプリントを配付するのではなく、毎時間の最後に「次時の予告」として配付することで、場面の移り変わりに興味をもたせられると考えた。配付した場面は音読の宿題などで事前によく読むように促し、学習前に場面を具体的に想像しておくことで、活発な話し合いにつながるようにしたい。

(3) 「伝え合いのポイント」の揭示

単元の最初に伝え合いを意識させるためのポイントを児童に伝える。伝え合うためには相手へ「伝える」ことだけでなく、相手の意見を「聞く」ことも重要になってくる。「聞く」とときには、うなずきや相づちなどのリアクションをすることや自分との考えの違いに着目して聞くことが大切である。また、自分の意見や思いを一方向的に伝えるのではなく、まず相手の考えや思いを受け止め、「でも」や「つまり」などの接続詞を活用することで話題が広がっていくと考える。このようなポイントをもとに、ループリックも作成していくことで、到達すべき姿がより具体的になると考えた。

視点2 実態に応じた支援の工夫

(1) ICT とワークシートの選択

本時の謎解きを伝え合う場面では、SKYMENU 発表ノートでまとめた児童は発表ノートを活用し、タイピングが苦手な児童はワークシートを活用するようにする。発表ノートでまとめた児童はそのまま、ワークシートを活用する児童はまとめ終わった後の写真を撮って発表ノートに貼り付け、ライブ公開提出箱に提出させる。ライブ公開提出箱は、提出した後の発表ノートは随時作業内容が反映されていく。そのため、友達の作業内容がいつでも確認でき、推理に行き詰まった際の参考になると考えた。

(2) スプレッドシートによる振り返り

振り返りの場面でも ICT を活用する。スプレッドシートに毎時間振り返りを記入させ、自分の考えを見直したり、今日の学習でできたことやわからなかったことを見返したりすることで、メタ認知的活動を促す。また、友達の振り返りシートを見ることもできるようにすることで、学び方を参考にしたり、次回どんな視点で読んだり話し合ったりすればよいのか参考にできるようにしたい。

7 本時の指導

(1) 本時の目標

推理したことをもとに話し合い、友達との感じ方の違いについて考えることができる。

(2) 本時の評価規準

多くの推理について、叙述をもとに想像し、伝え合おうとしている。 【思考・判断・表現】

(3) 展開 (6 / 8)

学習活動と内容	○指導や支援の手立て ◆評価
<p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の中に気になる行動がたくさんあった。 ・気になる行動の根拠となる文章をもとに二人のひみつを推理した。 <p>2 前時に解き明かしたにひみつを確認する。</p>	<p>○学習計画とループリックを示しながら本時の学習を確認することで、見通しをもたせる。</p> <p>○発表ノートに書いてあるひみつを確認することで、前時を想起し本時のめあてを明確にする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 名探ていになって、二人が起こした出来事のひみつを探ろう。 </div>	
<p>3 自分の推理をグループで伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二人が油性ペンをさわろうとしなかったのは、掲示板を汚してしまったからではないかな。 ・いつも取り合っているはずの二人が油性ペンをさわろうとしなかったのは、先生にこれ以上叱られるのを避けるためじゃないかな。 	<p>○自分と同じ観点か、違う観点かに気を付けながら話し合いをさせることで、友達との感じ方の違いに気付かせる。</p> <p>○「伝え合いのポイント」を教室に掲示することで、自分の推理をわかりやすく伝えるための表現の仕方や友達の推理の聞き方を確認したり参考にしたりできるようにする。</p> <p>○活発に伝えられる児童が偏らないように意図的にグループを組むことで、伝え合い活動の活性化を図る。</p> <p>○グループリーダーを決めて、全員が発表できるような進行ができるように留意させる。</p> <p>○グループの中の多数が推理できている項目から伝え合い活動をさせることで、どの児童も意見が伝えられるようにする。</p> <p>○伝えることが苦手な児童には、友達の意見をしっかりと聞くように助言する。</p>

<p>4 グループで推理をまとめていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・油性ペンをさわろうとしなかった原因は、いろいろ考えられるね。みんなの推理を聞いて、先生に怒られるもあるけど、汚したのがバレてしまうかもという不安とか汚してしまった後ろめたさとかがあったのかもって思ったよ。 ・先生にすぐに謝らなかったのは、対抗心から汚してまった原因を「相手のせい」にするとお互いが思っていたからじゃないかな。 <p>5 全体で推理を伝え合う。</p> <p>6 学習の感想を基に学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○発表ノートにグループの推理をまとめさせることで、全体で共有しやすくする。 ○違う観点の推理が出た場合は、一つに絞らずいくつか書いてもよいことを伝える。 ○全部の項目が解き明かされなくても、グループで伝え合ったところだけまとめられればよいことを伝える。 ◆ぼくの推理について、叙述をもとに想像し、伝え合おうとしている。【思考・判断・表現】 ○他のグループの推理を聞くことで、友達との感じ方の違いに気付かせる。 ○どのグループもまとめることができなかった項目があった場合は、個人的に考えた児童の推理を取り上げ、全体で考えることで、全ての項目の推理が考えられるようにする。 ○作成したループリックをもとに振り返らせることで、めあてにどのくらい近付けたか実感できるようにする。
--	---